



発行：2021年10月25日



保健だより 11月号

朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。一日のうちの寒暖差が激しいと、風邪をひきやすくなります。これからやってくる本格的な冬に向けて、風邪に負けない丈夫な体作りを心がけましょう。

〈インフルエンザ〉

昨年流行なかった分流行リスク高まるがワクチン供給は減る予想

「流行なかった分、反動が心配」

(2021年9月13日朝日新聞より抜粋)

東京露立川市などでナビタスクリニックを経営する久住英二医師は「インフルエンザは流行が無かった分だけ、次の流行は大きくなるリスクが高い。ワクチンはうつべきです」と話す。インフルエンザはコロナ禍と重なった昨年、感染者が非常に少ない状態が続く。手洗いやうがい定着した影響ともいわれる。

だが一般的に感染症は、感染が少ない年があると、免疫を持たない人が増え、流行のリスクが高まるとされる。久住氏は乳幼児がかかりやすいRSウイルス感染症が昨年は少なく、今夏に大流行していることを例に挙げた。政府が今秋に行動制限の緩和に動く方針を示したのも「緩和で様々な感染症の揺り戻しが起きるでしょう」と心配する。

厚労省は「昨年比2割減」を予想

一方、厚労省の見通しでは、インフルエンザワクチンの国内メーカー4社の今年度の供給量は近年で最大だった昨年度(3342万本)に比べ2割前後少ない水準にとどまる。さらにその一部は供給が例年より遅くなりそうだという。これは今冬の流行が予測されるウイルス型に培養で増えにくいものがあったり、精製用のフィルターが新型コロナウイルスワクチンの製造に回されて資材確保が難しくなったりするからだ。

《インフルエンザ》10月に1回目、11月中に2回目の接種が完了するように予防接種を!

流行期は12～3月です。小さな子どもの場合、1回の接種だけでは十分な免疫ができません。気管支炎や肺炎・脳症などの重症化を予防するのに必要な免疫ができるのは、2回目を接種して2週間ほどたった頃からです。毎年、流行するウイルスの型が違い、それに合わせてワクチンがつけられています。注) 生後6ヶ月～13歳未満…2回(要4週間程度の間隔)。13歳以上…1回

与薬の流れ ～薬の受渡～

“薬の受渡・返却は全て手渡しを原則”とさせていただきます。

連絡帳ケースやカバンの中での園内保管は、誤飲事故につながり、子どもの命に危険を及ぼしますので、ご協力をお願いいたします。

① 手渡しで受取

- 「与薬依頼票」「薬」「薬剤情報提供書」を登園時に直接手渡しでお預かりします。
- 「園児氏名」「与薬時刻」が記入されていない場合・薬剤情報提供書がない場合は薬はお預かりできません。
- シロップ薬を含め、散剤・シロップ薬全て1回分量毎に分けてご持参ください。
- 与薬依頼票の記入漏れ・薬への氏名と時刻の明記・1回分量を確認してから、保護者様をお見送りいたします。



② 与薬ポケットへ

- 与薬ポケットにて「与薬依頼票」「薬」「薬剤情報提供書」を管理します。



③ カバンにタグ

- 薬返却・与薬報告忘れ防止の為、お子様のカバンに赤色タグを取付けます。このタグは、お迎え時にカバンを受取後、保護者様がタグを取り外して「預けた薬・依頼票との引換札」として保育者にお渡しいただけます。



④ 与薬

- 与薬量・与薬児童の間違え防止の為、与薬者は「〇〇ちゃんに昼(又は夜)の薬を与薬します」と周囲の保育者に聞こえるように確認したうえで、与薬します。
- シロップは必ず2名の保育者で目視確認して与薬します。

⑤ 与薬完了ポケットへ

- 与薬を済ませた保育者は、その場で「与薬依頼票」に署名・押印します。
- 記入済の「与薬依頼票」を予約完了ポケットにてお迎えまで管理します。



⑥ 手渡しで返却

お迎え時にカバンを受取後、保護様がタグを取り外して「預けた薬・依頼票との引換札」として保育者にお渡しください。受け取った保育者は、タグと引き換えに、「与薬依頼票」「薬」「薬剤情報提供書」をお渡しし、与薬報告をいたします。